

2016.6.15
第160号

発行
福島県市町村
教育委員会
連絡会 津支
北耶麻沼支
両

編集
福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力
小・中学校長会

子どもたちの夢や希望の実現を目指して



会津教育事務所
所長 星 克一

「追い詰められても平常心でいられる。」「ミスなくできなければ五輪でもできない。五輪でやっている自分を自然とイメージしながらできていた。」これは男子体操のNHK杯で二位に入り、リオデジャネイロオリンピックの代表に決まった加藤凌平選手と、圧倒的な強さで大会八連覇を達成した内村航平選手のインタビューの一部である。加藤選手は最終種目の鉄棒で練習でもなかなか出せない得点を飛ばさない、田中佑典選手に逆転されたという非常に緊張する中だったが、着地を含めて完璧

な演技をし、見事に目標とした点数をたたき出した。この強さは一体どこから生まれたのだろうか。そして、代表に決定している内村選手は、世界の頂点を経験したことがゆるぎない自信となつて演技や言葉に結び付いていることを強く感じた。このように、スポーツの世界では、試合や日々の厳しい練習での自分との戦いを通して、夢や目標に近づいていく実感を持つことが、競技者自身を成長させている。このことを、子どもたちの夢や希望の実現を目指す学校教育

で考えると、共通点が多いことに気付く。何といっても大切なのは、動機付けである。目標を明確に持たせることで、子どもは達成したいという意欲が高まり、自ら行動に移していく。そして、過程での適切なかわり。支援を求めているのかどうかも含めて、どのタイミングでどのような支援をするのか。十分な観察が必要であることは言うまでもない。さらに、相互評価する機会の設定。このことにより新たなことに気づき、自分の中に取り入れられたり、自分の考えや方法に自信を持ったりすることが出来る。当たり前のようにあるが、子どもたちが繰り返す日々の活動の中でこれらのことをいかに意識して意図的に実践しているかが、子どもたちの夢や希望の実現に結び付いていくと考えられる。各学校での計画的な実践を期待したい。

平成二十八年度 管理関係 重点事項

- 一 教育委員会・学校との連携による人事管理の適正化
- 二 学校事故、不祥事等の未然防止

◎学校組織の充実・活性化による各学校の教育活動の充実

◎教職員の厳正な服務・勤務の確立
◎教職員一人一人の危機管理意識の高揚

◎各学校における左記の取組を支援する。

- 震災後の復興、特色ある学校づくりにつながる教職員組織の充実・強化を図る人事管理や人事事務の適正化に努める。
- 児童生徒の学力向上等で確実な成果を上げられるように、少人数教育による人事配置を生かした取組の工夫を支援する。
- 教職員の意欲や資質、指導力の一層の向上のために、教職員人事評価の効果的な実施を支援する。
- 教職員の勤務の適正化と負担軽減をはかるとともに、学校事務の共同連携の推進と成果の啓発に努める。
- 教職員の心身の健康保持のため、メンタルヘルスケアを推進する。

※学校全体として具体的な取組を推進することが、学校事故や不祥事等の未然防止につながるだけでなく、日々の教育活動の充実につながります。

社会教育関係重点事項



ふくしまからはじめよう。

Future From Fukushima.

【重点1】子どもたちの豊かな心をはくくみます

- (1) 『子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業』
 - ア テーマ1「避難者へ元気を!!」小学生以下対象
 - イ テーマ2「一人一人が復興大使!!」中学生対象
 - ウ テーマ3「起業体験、ふくしまを発信!!」高校生対象
- (2) 『ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト』
 - ア 読書活動支援者育成事業
 - 地区別研修会（会津域内において2回開催）
 - イ 子どもの読書活動推進ネットワークフォーラム（9月郡山市）
 - ウ 情報発信プロジェクト（高校生によるビブリオバトル）
 - エ 乳幼児期における読書活動推進事業
 - 猪苗代町、西会津町、金山町（3町で実施）

【重点2】地域全体で子どもたちを教える取組を支援します

- (1) 『子どもの学習支援による地域再生事業』
 - ア 放課後支援事業（10市町村で実施）
 - 会津若松市、猪苗代町、喜多方市、西会津町、会津坂下町、湯川村、柳津町、会津美里町、三島町、金山町
 - イ 学校支援事業（5市町村で実施）
 - 会津若松市、北塩原村、西会津町、柳津町、三島町
- (2) 『学校・家庭・地域連携サポート事業』
 - ア 学校支援実践研修会（北塩原村で実施予定）
 - イ 放課後子ども教室研修会（道の駅あいづ湯川・会津坂下 7月28日(木)）

(3) 地域間の連携・協働による取組

【重点3】家庭における教育を支援します

- (1) 『地域でつながる家庭教育応援事業』
 - ア 「家庭教育応援プロジェクト」
 - 地域家庭教育推進会津地区ブロック会議(6月・1月) 地域の課題について、郡市PTAと連携しながら家庭における実践につなげる。
 - 親子の学び応援講座
 - モデルPTAを設置し、親の学び・家庭での実践活動を支援する。(会津美里町で実施予定)
 - 家庭教育応援企業推進活動
 - 家庭教育の推進に取り組む企業を募集し、企業と連携し、地域の家庭教育を推進する。
 - フォローアップ研修（会津域内で1回開催）
 - イ 「家庭教育応援リーダー育成事業」
 - 家庭教育支援者全県研修（7月 郡山市で実施予定）
- (2) 『ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業』
 - 子どもと大人あるいは子ども同士の間で、自然・社会体験活動などの共通体験を通して、お互いが感じた思いや願い等を作品にする。(応募期間：7~9月)

【重点4】自然に親しみ自然を尊重する心をはくくみます

- (1) 『ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業』
 - ア 社会教育団体自然体験活動支援事業
 - イ ふくしまっ子体験活動応援補助事業

平成28年度の指導関係の重点

今年度は、『躍動！「チームふくしま」』の推進テーマの下、以下の4項目を最重点項目として幼小中高等学校を支援します。詳しくは、「会津教育事務所 経営・運営ビジョン」（教育事務所HPにも掲載）をご覧ください。

1 子どもたちの豊かなこころの育成

- ◎ 道徳教育全体計画別業等を活用した道徳教育の充実
 - ・別業の積極的な活用に向けた具体的な指導
 - ・『道徳の教科化』へ転換を図る指導助言
 - ・「私たちの道徳」や県資料集（2月に学級数分配付済み）を活用した授業の促進
- ◎ 自己肯定感・自己有用感を高める学級・学習集団づくりの推進
 - ・生徒指導の機能を生かした集団づくりの充実に向けた指導助言
- ◎ 不登校防止や減少に向けた組織的な取組等の推進（目標：不登校児童・生徒数前年度比10%減）
 - ・相談・支援体制の整備と学校訪問等による支援

2 子どもたちの生き抜く力を支える「確かな学力」の育成

- ◎ 「確かな学力」の向上を図る継続的な検証改善サイクルの確立
 - ・PDCAサイクルを明確にした学力向上グランドデザインの全職員の共通理解
 - ・共通実践事項を明確にした組織的な取組
- ◎ 「確かな学力」の向上を図る授業づくり
 - ・問題解決的な学習を中軸とした授業実践の指導助言
 - ・『わかる・できる授業』実践の具体的な方策の指導助言とHP掲載
 - ・言語活動の充実を図るための具体的な方策の指導助言とHP掲載
 - ・コアティーチャー等を活用した授業研究会や学力調査

を生かした授業や研究会の工夫

- ◎ 「確かな学力」の向上を図る基盤づくり（学習習慣・生活習慣の確立）
 - ・学習習慣や生活習慣の確立への指導助言
 - ・授業と家庭学習のサイクル確立への指導助言
- 3 子どもたちの健やかな体の育成
 - ◎ 『体力向上』や『運動の習慣化』を図る授業や体育的活動の充実
 - ・「体力向上推進計画」に基づく体力向上策の共通実践に向けた指導
 - ・ねらいを明確にした体育・保健体育の授業の推進
 - ◎ 「体力向上・肥満防止」リーフレットに基づく食育の充実
 - ・「体力向上・肥満防止」及び各校の食育全体計画に基づく食育の共通実践に向けた指導
 - ◎ 「自分手帳」を活用した健康教育の推進
 - ・肥満防止や減少に向けた組織的な取組の推進
- 4 「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進
 - ◎ 全職員の連携・協働による組織的な校内支援体制の充実
 - ・一貫性・系統性のある支援体制づくりに向けた指導助言
 - ◎ 一人一人のニーズに応じた指導の充実
 - ・教員の相談技能の向上、ケース会議や発達障がいに関する校内研修等への支援（教員の専門性や指導力向上を図る支援）
 - ◎ 家庭・地域及び関係機関との連携強化
 - ・SCやSSWとの積極的な連携、関係機関や特別支援学校のセンター的機能の積極的な活用の推進に向けた指導助言



「危機管理」の意識

会津若松市教育委員会教育長
本田 樹

「災害に対して、備えは万全ですか？」

東日本大震災発生からすでに5年以上の歳月が過ぎ、復興・復旧は遅々とした歩調ではありますが、少しずつ進展している感が見られるようになってきました。しかしながら多くの避難者の皆様をはじめ被災県民は先行きに大きな不安を抱き、まだまだ安定した生活は程遠いかと思えます。

そのような中、平成28年4月に発生した熊本地震は、甚大な被害をもたらし、多くの皆様が避難を余儀なくされました。ニュース報道等を見るにつけ東日本大震災と重複し、大変悲しく、自然の莫大なエネルギーは、人間の及びつかないものであると痛感させられました。亡くなられた方への哀悼の意を表するとともに、被災した皆様の一刻も早い復旧を願うものです。

こんな話を伺いました。《お城は、大きな地震が発生すると、屋根瓦が崩れ落ちるよう作られおり、瓦の重みで城そのものが崩壊するのを防ぐよう設計されている》ということでした。

熊本城も屋根瓦が大きく崩れ落ち、石垣も崩れてしまいましたが、天守は崩壊を踏みとどまっていました。先人の危機管理への工夫です。

では、現代の私たちはどうでしょう。のど元過ぎれば何とやらで、つい危機意識も薄れているのではないのでしょうか。もう一度、家庭では何をしておくか、学校では何をしておくか、行政は何をしておくか・・・。

「災害に対して、備えは万全です。」と言えるよう「危機管理」を再考しなければならないと痛感するとともに、災害ばかりではなく多くの危機を想定し、知恵を集結していかなければならないと感じるこの頃です。

我がまちからの情報発信

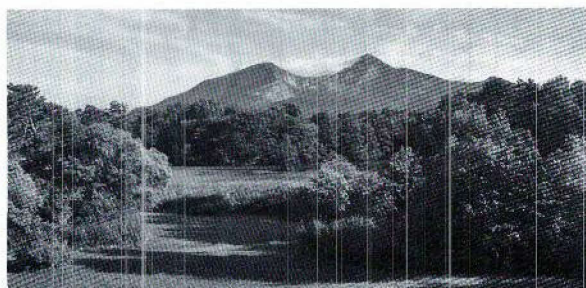
北塩原村教育委員会

「本物」や「一流」との出会いを 楽しむ「やどかりクラブ」

北塩原村公民館では平成28年度から村民を対象とした「やどかりクラブ」を企画し、村民自らが考え、学ぼうとする機会を作り、村にない「本物」や「一流」との出会いを楽しみながら、村民同士の交流を深めることを目的に実施しています。

第1弾は4/21(木)に福島県立美術館にて開催されている「フェルメールとレンブラント展」による17世紀オランダ黄金時代に描かれた絵画を見学し、西洋絵画の奥深さを実感しました。また、花見山では春の植物の中を散策し、春の香りを満喫するとともに、住民同士の交流を楽しんでいました。

今後も随時、企画していきたいと思えます。



『事業の趣旨』

- ①旅費は無料。但し、食事代・入館料・観劇料などは個人負担です。
- ②遠足(おさんぽ・小旅行)を楽しみます。
- ③本物や一流との出会いを楽しみます。
- ④おいしいものを食べてきます。
- ⑤都合のいいときだけ、元気に参加します。
- ⑥みんなとワイワイガヤガヤを楽しみます。

